海外駐在記事

米国(ジョージア州 Alpharetta 市)駐在記

SzeWeng Choong [(株)東芝]

1. はじめに

筆者はスマートグリッドソリューション提案活動を北米で推進する北米ソリューションセンターのメンバーとして2013年6月から米国のアトランタ近郊の Alpharetta 市に滞在している。本稿では米国における生活とスマートグリッド導入状況について簡単に紹介する。

2. 背景

筆者の出身はマレーシアであり、家では中国語で会話していた。一般にマレーシアにいる中国系の人はマレー語、中国語と英語を普通に話すことができる。

5年前、日本語を喋れない私は、東芝社会インフラシステム社の電力システムシステム部に配属された。入社後、仕事をしながら日本語を勉強したものの、簡単な事ではなかった。渡米前は米国、中国や東南アジアのスマートグリッドシステムプロジェクトに参画していた。米国駐在中は日本と米国の橋渡しとなってビジネスを拡大していこうと思っている。特に多民族国家の米国では、英語、中国語、マレー語、日本語を活用していければと考えている。

3. 滞在生活

アメリカの人たちはフレンドリーで知らない人でも気楽に話しかけてくる。スーパーのレジ係はヨーグルトを買っているお客さんに「自分もこのヨーグルトが好き」と話しかけ、自宅のキッチンで最近改築したという話へ広げていく。会ったばかりの人なのに、よくそこまで話すと感じることが何度もあった。後ろに長い行列ができていても平気でお客を待たせて話し込む。これは日本ではありえないことだ。感心することに並んでいるお客さんたちはクレームもしない。

プライベートライフだけでなく、職場でもアメリカ人の同僚と仲良くコミュニケーションするため、日常会話はすごく重要であると感じた。

4. 北米でスマートグリッドの導入状況

日本の電力供給システムは他の先進国に比べても群を抜いていると思うが、アメリカではカリフォルニアやニューヨークの大停電に象徴されるように、停電が頻繁に発生する。

米国では再生可能エネルギーやスマートグリッド関連の展示会が多数あり、日本では見られない国内外の実証プロジェクトが紹介されている。また、技術開発や国際標準化活動が積極的に進められていることが感じられた。

図1 2015年 DistribuTECH 展示会

筆者はスマートグリッド関連製品、技術、システムが中心の学会兼展示会である DistribuTECH に参加し、東芝のスマートグリッドソリューションをアピールした。来場者の中では、特に再生可能エネルギーの導入やグリッドの安定性・信頼性の向上に興味を持つお客様と意見交換できた。例えば、カリフォルニアの ISO は再生可能エネルギーの大量導入後の日負荷曲線をいわゆる Duck Curve で示し、その急な立上りに対応して出力変更できる電源の導入を図っている。この ISO は他にも、データの監視、収集、分析システム、AMI システム、バッテリー、デマンドレスポンス、分散型発電、双方向送電、マイクログリッドなど、多くの分野に取り込んでいる。

5. 感想

米国に赴任してから約2年が経過した。日本、米国、母国マレーシアでの生活を通して、文化の違い、新興国と先進国の考え方に触れたことは自分にとって非常に貴重な経験である。

東芝の創業者の田中久重さんも「知識は失敗より学ぶ。事を成就するには、志があり、忍耐があり、勇気があり、失敗があり、その後に、成就があるのである」と言われていたがまさにその通りなのだと思う。今後、この駐在経験を活かして、失敗を恐れずにマレーシアと日本の発展に貢献して行きたい。

(2015年3月20日受付)